

ペットボトルを使用した救助



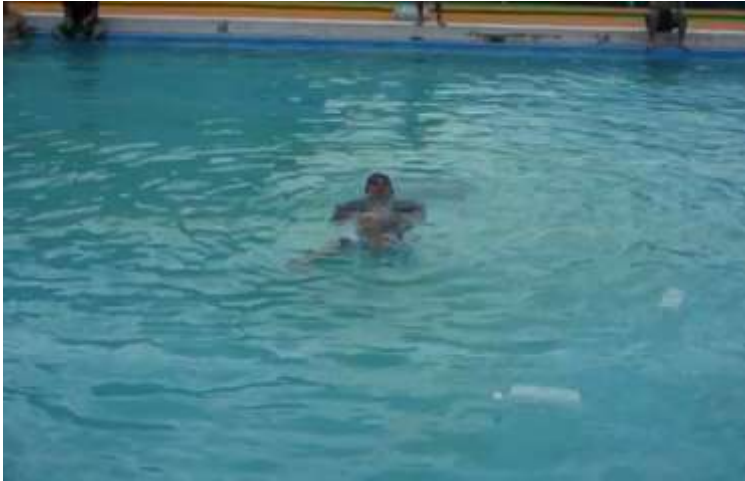
救助者は落水しないように自分の身の安全を確保したうえで溺者に対して呼びかけをします。



溺者の腹部や胸部をめがけて空のペットボトルを投げます。



溺者がペットボトルをつかめない場合は、さらにペットボトルを投げ入れます。



溺者がペットボトルを2本つかめると安定した背浮きができます。

溺者との距離が約10m未満の場合はペットボトルを投げ入れるのが有効です。距離が離れすぎると命中させることができなくなります。